



笑顔とやる気いっぱいの七中 生徒自らが常に鍛え続ける七中

七中だより



第 10 号

中野区立第七中学校《学校だより》

令和2年9月1日

TEL 03-3389-4171

二冠戴冠

校長 池田 俊一

短い夏休みがおわりました。コロナウイルス感染防止による自粛の雰囲気日本を覆っている感が強く何をやっても心の底から楽しめなかったのではないのでしょうか？そんな中ですが、棋界では大変素晴らしいニュースが駆け巡りました。いま将棋の世界に留まらず「藤井聡太」の名前を知らない人はいないのではないのでしょうか。今回の学校便りは、理屈抜きに「へえ～、なるほど、そうなんだあ。」と思えるものにいたします。

藤井聡太さん 棋士(将棋のプロ) 現在高校3年生 将棋界の八大タイトル

『棋聖』を7月16日 奪取 初戴冠(タイカン)最年少記録を更新(30年ぶり)

・棋聖のタイトル＝持ち時間4時間、一日で勝敗が決する。五番勝負で3勝先行 今回は〇〇●〇の第4局で決着

『王位』を8月20日 奪取 二冠戴冠の最年少記録更新(28年ぶり)

・王位のタイトル＝持ち時間8時間[2日制、次の一手を封印し翌日再開]七番勝負で4勝先行。今回は〇〇〇〇の4連勝で決着。同時に八段に昇進。これも最年少記録更新(62年ぶり)

ちなみに62年ぶりの更新となった八段の記録は、お茶の間でも人気の加藤一二三九段が作ったものでした。一冠から二冠達成までの期間は僅かに35日。その間も他のタイトル戦や前哨戦が、いくつも入っていました。(プロ棋士の世界は大変です)

藤井さんエピソード

・将棋そのものが大好き。努力を重ねている事も楽しくてしょうがないレベル。自然体を大切に、タイトルは

嬉しいが純粋にもっと強くなりたいという気持ちが高い。

・日頃から何でも納得するまで考える。レストランのメニューなどでも。

・AI を使って将棋研究に余念が無い。棋聖戦の第3局58手目の「3一銀」は将棋ソフトで6億通りもの局面を読ませて初めて「最善手」として出現したほどの「神の一手」であったと後に話題になる。(藤井七段は23分で指す)

・小学校2年生のとき、谷川九段(憧れの棋士)と指導対局中に劣勢の藤井君を気遣って「引き分けにしようか」との提案に将棋盤を抱えて号泣し、母親がやっとの事で引き剥がした。その少年が6年後に世間をアツといわせる。その時はできなかったが「負け」に正面から向き合って改善できる様になっていった。

・職業としての将棋は26歳までに勝ち上がれなければプロにはなれない。厳しい世界を諦め学業を優先した同門弟子との最後の局でお互いに泣きながら指した経験がある。それが泣き虫だった藤井さんの最後に流した涙だったそうである。

・「普通は指さないだろうという一手」を大胆に指すことができる。誰しもが終盤戦の強さが飛び抜けているという。序盤戦に持ち時間をしっかり使ってじっくり考える。

さて、今後の棋界は藤井さんが中心になるのでしょうか。将棋大好き少年の一人途な成長にこれからも目が離せませんね。

では七中の生徒の皆さんは何が大好きなのでしょう。

